



八代将軍・吉宗公の拓いた飛鳥山が、いま甦る ～都市公園の新たな活用に向けて～

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、身近な生活に目が向いた1年でした。先輩方がvol111号とvol117号で報告した東京都北区の飛鳥山公園で三密を避けたイベントが開催されました。今回はそのイベントの体験をレポートします。

■ 八代将軍の観光政策によって拓かれた飛鳥山での新たな取り組み

八代将軍・吉宗が改革を進める中で、庶民の楽しみのために江戸市中から2里(約8km)の4カ所に観光地を創った中の一つが飛鳥山です。桜を1270本植えて一般公開し、さらに地元住民の商いを奨励しました。当時は上野の寛永寺・向島(墨堤)と共に江戸の桜の名所になりました。また、明治6年には上野公園・芝公園・浅草公園・深川公園と共に日本で初めて公園に指定されました。現在は渋沢栄一の別荘であった「晩香廬」や「青淵文庫」、「飛鳥山博物館」・「渋沢史料館」・「紙の博物館」の三博物館等があり、人々の憩いの空間となっています。

平成29年には都市公園法が改正され、公園内でのカフェやレストランなどの施設整備が可能となりました。今年の大河ドラマや2024年度の紙幣の肖像画変更による渋沢栄一翁が注目されることで、飛鳥山公園もクローズアップされることで期待されます。

■ 公園内で本格的な野外レストランを試験的に実施

コロナ禍で開催が懸念されていましたが、2020年10月30日(金)からの3日間、飛鳥山公園内にある「日渋沢庭園」で「Shibusawa Garden Special Holiday」が開催されました。もちろん注目を浴びようとしている渋沢栄一翁を題材としたものです。

昼にはキッチンカーが複数出店し、多くの人で賑わっていました。ソーシャルディスタンスのしっかりとれたテーブルで、普段とはひと味違った優雅なランチを満喫できました。

夜はライトアップされた渋沢庭園にて生演奏を聴きながら、コース料理が振舞われました。このコース料理は渋沢翁がたびたび会食に訪れたといわれる「上野精養軒」の渋沢翁に関連した料理です。渋沢翁の庭園で、渋沢翁の好んだ料理を食べることができて、まるで自分が渋沢栄一になったような気分を味わうことができました。

■ 「地域めぐりすころく」で子ども達も渋沢翁に関心を寄せる取組を……

“遊びながら学ぶこと”一子ども達の興味・関心を惹く基本です。子ども達にもっと渋沢翁に関心を寄せてほしいと考え、地元の滝野川第三小学校の協力もいただき「渋沢栄一でまち歩きワークショップ」を2020年12月5日に開催することとなり、その企画に参画する機会を得ました。

ワークショップでは飛鳥山公園内にある博物館、渋沢翁関連の晩香廬等の散策・見学の後、すころく遊びで学びを確認してもらう構成としました。地域学習ツールとして飛鳥山公園を中心に渋沢関連施設や周辺の施設をマスのにした「渋沢すころく」を試作しました。

公園や博物館などで学んでもらったことをどのようにしてすころくで遊びながらアウトプットさせるかにとっても悩みました。最終的には渋沢翁や飛鳥山に関するクイズをマスに配置し、子どもたちがメモしてきたものをもとに答えてもらう形になりました。「渋沢すころく」の試作品が完成し、試しに私たちで遊んでみたところ、とても盛り上がり楽しむことができました。イベント当日も、参加した33人の子ども達は楽しみながら学んでいました。もっと多くの子ども達にも楽しんで学んでもらいたい……是非このすころくを商品化していただきたいと思います!!

(高山晶光・栗田律子・石山千寛)



浮世絵に描かれた江戸時代の飛鳥山の姿
歌川広重「江戸名所図会・飛鳥山」



渋沢翁が愛した食を再現。屋外での生演奏の中で本格的なコース料理が提供されました。公園の新しい活用として期待されます!



私たちが試作した「渋沢すころく」。子どもたちの興味・関心を惹くように努めました!



渋沢翁と縁のある飛鳥山を探索の後、小学校の体育館でもつグループですころく遊びを通じて、学んだことを確認しました。